

## 三郷市自治基本条例 市民ワークショップ グループワークの記録

平成21年11月10日(火)午後6:30~8:30 @鷹野文化センター大会議室B

### 1. 自治基本条例に関する疑問・質問・意見

#### ○条例の効力・効果について

- ・ この条例は、他の条例と同様に具体的な効力や罰則はあるのか。それらがなく、モラルに頼るだけの目標でしかないなら、必要性自体が低いのではないか。

#### (事務局)

- ・ 今後、「運用の考え方」を公表して条例に基づいて様々な取組みを実施する他、自治基本条例関連の事業については職員等の配置及び予算などについて優先順位を高くしていく。
- ・ また、本条例は、他条例の“目次”的な役割を果たすという意義もある。

#### ○三郷市らしさ

- ・ 三郷市の条例が他の自治体の条例と比べて、どこが特徴なのか、三郷市らしさは何かを知りたい。

#### ○条例の今後の課題など

- ・ 策定過程にも、様々な議論の中で変化した部分、妥協した部分があったはずだ。また、この条例はこのまま変わらないのではなく、状況によって変化していくものと考えている。そのため、この条例の現在の問題点、課題、今後の方向性が分かるとよい。そのことで市民はより一層興味を持てると思う。

#### ○誰にでも分かりやすい解説を

- ・ 資料「運用の考え方」にはカタカナ語が多い。様々な年代の市民が読んで分かるように、日本語に噛み砕けるのであれば工夫してほしい。

#### ○議会の役割

- ・ 議会の役割が具体的に書かれていないので分かりにくい。
- ・ 現状では、政策の意思決定過程に議員が関わることがほとんどないと思われる。
- ・ 議員が「こうゆうことをやりたい」と考えたときに、それを政策検討過程に上げる方法・手続が分からない。
- ・ 議員個人としてではなく、議会が議論をした上で、議会として執行機関に提案するのが最も透明性があり、効果的な方法だと考えている。

#### ○町会の位置づけについて

- ・ 町会からの要望、意見の扱い方が具体的に書かれておらず分からない。町会からの要望は地域住民の切実な要望であることが多く、そこに予算を配分してくれるのか、市の姿勢が分からない。一方で、行政から町会への要望が多く、どこまで対応できるのか疑問だ。

#### (事務局)

- ・ 町会への協力依頼については、類似の依頼が重複しないよう、行政内部で調整を図っているところである。
- ・ この条例では、町会はコミュニティの一つとして捉えており、他の市民活動団体と同様、町会からの能動的な提案を頂きたい。

## 2. 自治基本条例の運用について

### ○三郷学講座

#### 【多世代の様々な価値観をぶつけ合う場に】

- ・ 市民の中には、いろいろな知識、情報を持った人がいる。情報交換、交流が必要だ。
- ・ 三郷市のまちづくりを考えた際、スクラップ&ビルドすべき部分と守るべき部分がある。市民活動団体の中には保守的な団体も多いが、新しい視点を持ってもらうためにも、多世代が交流できる、価値観のぶつけ合いができる場であるべき。

#### 【幅広い対象とテーマを】

- ・ この事業の対象者は「市民全員」であることを強調すべき。
- ・ 高齢者支援、子育てなど福祉分野もテーマに含めてほしい。
- ・ 小中学生へのアプローチは大切である。子どもに興味を持ってもらうには先生の魅力が重要だ。

#### 【郷土愛を持つために】

- ・ 青年会議所の活動目的と、この講座の目的は合致しており、過去のノウハウも活かして協力したいと考えているが、一番の問題は集客である。ある意識調査では、三郷市民の三割程度しか「ずっと三郷市に住み続けたい」と思っていない。郷土愛をいかに持つかという点が重要だ。特に、小さい頃の体験が重要だと考えている。
- ・ 住民税が安い、子育てしやすいなどの具体的な魅力をつくり、移り住みたくなくなるようなまちづくりをしていかなければならない。
- ・ シルバー元気塾など市内には誇れる活動がある。PRする場になるといい。
- ・ 観光地では、市民がいきいきと観光案内ボランティアをしている姿がある。三郷市でもそのような取組みができるといい。

#### 【名称について】

- ・ 三郷市のこれまでのことを学ぶだけのように聞こえる。講座のねらいである「歩むべき方向を考える」ことが重要であるので、それが伝わる名称にしたい。例えば、「三郷の明日を考える会」「三郷の22世紀を考える会」など。

### ○協働の推進

#### 【十分な審査とスピード感のある運営を】

- ・ 協働事業提案制度のスケジュールがスムーズであるべき。提案してから次の年まで実施できない、ということでは、熱が冷めてしまう。
- ・ 第三者による審査、評価があるといい。
- ・ きちんとした審査は必要だが、時間がかかりすぎたり、書類が複雑では市民は集まってこない。
- ・ 単年度の事業なのか、中長期的な事業なのかを見定めた上で、資金助成が“既成事実”とならないよう、毎年度の審査をする必要がある。

#### 【枠予算の確保】

- ・ この制度にかかる予算措置はどうするのか。その前にまず無駄な事業がないか整理が必要ではないか。
- ・ 太田市の事例のように枠予算を設けるべき。

#### 【行政の意識改革から】

- ・ 行政職員全体が協働について同じ方向を見ていることが必要だ。

### ○コミュニティ活動拠点

#### 【地域の空きスペースの活用】

- ・ 小中学校の空き教室を地域のための場として活用すべき。

- ・ 現在、施設の使い方は固定観念があり限定されてしまっている。地域の空きスペースを公募してはどうか。意外と面白いスポットがあるのではないか。「まちの再発見」という意味にもなる。
- ・ 古いものを探しながら使っていくという視点を持ちたい。

**【既存施設の使いやすさの向上】**

- ・ 既存の公共施設は、管理運営やハード面も含め、人が入りやすい、集まりやすい工夫をして稼働率を上げてほしい。
- ・ 休館日を減らす、地域ごとに休館日をずらすなどの工夫もしてほしい。